

Difficulties faced by care managers in interventions for family members who abuse the elderly: interviews with care workers

著者	表 志津子
著者別表示	Omote Shizuko
journal or publication title	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 (保健学専攻)
volume	平成19年4月
page range	10
year	2007-04-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/19488

平成 19 年 2 月 23 日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1859 号

学籍番号

氏 名 表 志津子

論文審査員

主 査 (教授) 城戸 照彦

副 査 (教授) 泉 キヨ子

副 査 (北海道大学教授) 佐伯 和子



論文題名 Difficulties faced by care managers in interventions for family members who abuse the elderly : interviews with care workers

論文審査結果

論文内容の要旨：本研究の目的は、要介護高齢者を虐待する家族への介入において、介護支援専門員が感じる困難の内容を明らかにすることである。研究方法は、介護支援専門員自身の認識の意味を分析するために質的帰納的因子探索型研究を用い、3年以上経験のある介護職の介護支援専門員を対象とした。面接調査を実施し継続比較分析が行われた。結果として、介護支援専門員には、理念では太刀打ち出来ない虐待者への無力感があることが見出され、虐待の本質的な要因として、虐待者との間に心理的な壁が存在する、虐待者と対峙することが怖いと抽出された。介護支援専門員の役割に関する要因として、虐待者である介護者との関係を維持しなければならない、家族関係に波風を立てたくない、虐待の根底にある家族関係への介入には至れない、虐待家族にも家族の絆はあると信じたいと抽出された。これらの概念を導く認識とその動きから、虐待家族と関係を継続しなければ虐待家族の介入には至らない現状とその要因が明らかにされた。高齢者虐待への介入方法は確立されておらず、行政においても課題である。介護支援専門員の困難感をサポートする体制作りと共に、介入可能な虐待の検討、介入手法の開発が必要である。

審査結果の要旨：審査においては、会場からも多数の質問があり、活発な質疑が行われた。その結果、研究のオリジナリティに関しては、高齢者虐待という困難な事例を担当する専門職の状況、特に支援の鍵となる介護支援専門員の認識は研究されておらず、本研究が現状と支援の方策を検討する上での貴重な研究であることが説明された。また、地域で多職種が協働する上では相互理解が重要であり、介護支援専門員を対象としたことには地域支援としての意義もある。制度上の問題も討論され、本結果が介護支援専門員の力量を高め、より適切な被害者・虐待者支援につながる教育・システムを作ることができると考えられた。センシティブな課題を取り上げたユニークさと、研究デザインに沿って着実に分析を進めた研究手法においても評価できる。プレゼンテーションに用いた資料や発表態度は適切であり、研究テーマに関する十分な見識を有している。以上より、本研究は博士後期課程の学位授与に値すると評価する。